

日本活断層学会設立趣意書

日本の活断層研究は、1960年代以降、変動地形学・構造地質学・第四紀学・地震学等を総合する形で急速な発展を遂げてきました。80年代以降、多くの活断層研究者は、活断層研究会編集の「日本の活断層」や「活断層研究」の出版などを通して研究の進展と普及に努め、日本列島とその周辺海域における活断層の分布とその特徴を明らかにするなど、大きな成果を挙げてきました。これらは、第四紀地殻変動の定量的な議論を可能にするとともに、活断層が引き起こす直下型地震の発生可能性を定量的に見積もる研究を促進しました。しかし、こうした研究成果は地震防災や減災に十分に活用されないまま、95年阪神・淡路大震災では、多くの人命が奪われました。その教訓を基に政府が設置した地震調査研究推進本部は、基盤的調査観測の一部として全国の主要活断層帯に関する基本的な調査を実施し、その成果に基づいて、地震が発生する可能性を長期評価として公表しています。

しかし、地震発生予測のための活断層データは、未だ十分に整備されたとは言えません。活断層の幾何学的形状と震源過程の関係や大地震の発生様式をはじめとして、明らかにすべき科学的課題は数多く残されており、これらの解決が活断層の地震予測をするために重要な意味をもっています。一方で、年代測定・リモートセンシング・地理情報システム・物理探査など、活断層の調査手法は著しく高度化・多様化し、詳細な活断層分布図の作成や、活断層の活動履歴調査・地下構造探査などによって、活断層に関する情報は近年飛躍的に増大しています。こうした状況の中で、活断層に関する科学的課題を解決するためには、個別領域の研究を強力に推進するとともに、関連分野間の情報交換や議論を促進することが必要です。

また、活断層研究の成果を地震防災に活かすための方向性や、具体的な対策のあり方についても明確にすることが必要となっています。被害軽減の実現のためには、災害の適切な事前評価とその啓発によって、低頻度巨大災害対策のあり方について社会的な合意形成を図る必要があります。断層変位や強震動に対応した土木建築構造物の設計手法や、土地利用・リスクコミュニケーションに関する研究も始まり、既存の学問領域の壁を越えた総合的な研究開発の推進の必要性も高まっています。研究者と行政・企業・一般市民が連携して、防災上有効な活断層の評価や災害軽減策を議論する場を作ることも急務です。さらに、最近の諸外国における地震災害に示されるように、海外の研究者との情報交換や協力は今後ますます重要であり、国際的視点から活断層研究や防災のための議論を促進していく必要があります。

以上の様な状況に鑑み、関連学協会や活断層研究会と協力しつつ、活断層に関する基礎研究のさらなる発展、多分野間の連携強化による総合的研究の推進、成果の普及を通じた社会貢献、ならびにそれらを担う人材の育成などを目的として、ここに日本活断層学会を設立します。

2007年9月22日

設立発起人：吾妻 崇（産業技術総合研究所）、有賀義明（電源開発）、粟田泰夫（産業技術総合研究所）、飯尾能久（京都大学）、井川 猛（ジオシス）、石山達也（東北大学）、伊藤 潔（京都大学）、入倉孝次郎（愛知工業大学）、岩崎孝明（アイ・エー・エス地質調査）、植村善博（佛教大学）、宇根 寛（国土地理院）、越後

智雄（地域地盤環境研究所）、遠藤邦彦（日本大学）、尾池和夫（京都大学）、太田陽子（横浜国立大学）、大津直（北海道立地質研究所）、岡崎和彦（ダイヤコンサルタント）、岡田篤正（立命館大学）、岡孝雄（北海道立地質研究所）、岡村眞（高知大学）、岡村行信（産業技術総合研究所）、岡本俊郎（芝浦工業大学）、奥野真行（伊勢市役所）、奥村晃史（広島大学）、小田切聡子（国土地理院）、小俣雅志（アイ・エヌ・エー）、香川敬生（地域地盤環境研究所）、垣見俊弘（地学情報サービス）、桂雄三（文化庁）、加藤茂弘（兵庫県立人と自然の博物館）、金田平太郎（産業技術総合研究所）、北田奈緒子（地域地盤環境研究所）、木下博久（復建調査設計）、金幸隆（東京大学）、木村治夫（産業技術総合研究所）、熊木洋太（専修大学）、熊原康博（広島大学）、隈元崇（岡山大学）、後藤秀昭（広島大学）、小長井一男（東京大学）、近藤久雄（産業技術総合研究所）、齋藤勝（ダイヤコンサルタント）、佐護浩一（ダイヤコンサルタント）、佐竹健治（産業技術総合研究所）、佐野正人（中央開発）、澤祥（国立鶴岡高専）、島崎邦彦（東京大学）、嶋本利彦（広島大学）、須貝俊彦（東京大学）、杉戸信彦（名古屋大学）、杉山雄一（産業技術総合研究所）、鈴木康弘（名古屋大学）、関口辰夫（国土地理院）、添田孝史（朝日新聞）、高木秀雄（早稲田大学）、高瀬信一（ダイヤコンサルタント）、高田圭太（復建調査設計）、竹内章（富山大学）、武村雅之（鹿島）、田近淳（北海道立地質研究所）、田力正好（日本原子力研究開発機構）、谷口薫（地震予知総合研究振興会）、千田昇（大分大学）、千葉達朗（アジア航測）、佃為成（東京大学）、津沢正晴（国土地理院）、堤浩之（京都大学）、遠田晋次（産業技術総合研究所）、土岐憲三（立命館大学）、戸田茂（愛知教育大学）、豊蔵勇（ダイヤコンサルタント）、中尾征三（総合地質調査）、長岡信治（長崎大学）、中島秀敏（文部科学省）、中田高（広島工業大学）、中林一樹（首都大学東京）、中村洋介（立正大学）、丹羽俊二（国土地理院）、野澤竜二郎（玉野総合コンサルタント）、野津厚（港湾空港技術研究所）、野原壯（日本原子力研究開発機構）、平野信一（東北大学）、平原和朗（京都大学）、廣内大助（愛知工業大学）、廣瀬亘（北海道立地質研究所）、福富幹男（元応用地質）、藤原広行（防災科学技術研究所）、細矢卓志（中央開発）、堀宗朗（東京大学）、前杢英明（広島大学）、牧野内猛（名城大学）、松井和夫（ダイヤコンサルタント）、松浦一樹（ダイヤコンサルタント）、松浦旅人（産業技術総合研究所）、松岡裕美（高知大学）、松澤暢（東北大学）、松田時彦（地震予知総合研究振興会）、松多信尚（國立台灣大學）、水野清秀（産業技術総合研究所）、宮内崇裕（千葉大学）、宮腰勝義（電力中央研究所）、宮下由香里（産業技術総合研究所）、宮田隆夫（神戸大学）、宮脇明子（阪神コンサルタンツ）、宮脇理一郎（阪神コンサルタンツ）、三輪敦志（応用地質）、向山栄（国際航業）、村山良之（山形大学）、目黒公郎（東京大学）、八木浩司（山形大学）、安江健一（日本原子力研究開発機構）、柳田誠（阪神コンサルタンツ）、山口勝（日本放送協会）、山中佳子（名古屋大学）、横田裕（阪神コンサルタンツ）、吉岡敏和（産業技術総合研究所）、吉田昌史（読売新聞）、吉見雅行（産業技術総合研究所）、吉村実義（ダイヤコンサルタント）、林愛明（静岡大学）、脇坂安彦（土木研究所）、渡辺満久（東洋大学） 以上 122 名